

高等学校教育改革

《「学力の3要素」の確実な育成》

✓教育課程の見直し

- 2016年12月答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」
- 高等学校学習指導要領を改訂（育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直し）（2018年3月）

✓学習・指導方法の改善と教師の指導力の向上

- 高等学校学習指導要領を改訂（「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点からの授業改善の推進）（2018（平成30）年3月）
- 2015（平成27）年12月答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」
- 「教育公務員特例法等の一部を改正する法律案」（教育公務員特例法、教育職員免許法、教員研修センター法の一括改正）が成立（2016（平成28）年11月）

✓多面的な評価の推進

- 「高校生のための学びの基礎診断」の認定基準を策定し、この基準により測定ツールを認定・公表（2018年12月）
- 「キャリア・パスポート（仮称）」の調査研究を実施（2017年度から）
- 高校学習指導要領の改訂を踏まえ、指導要録参考様式を見直す予定（2018年度以降）
- 「検定事業者による自己評価・情報公開・第三者評価ガイドライン」を策定（2017年10月）

大学教育改革

《「学力の3要素」の更なる伸長》

✓「三つの方針※」に基づく大学教育の質的転換

- 「三つの方針」の一体的な策定・公表の制度化（2017年4月施行）
- 「三つの方針」策定・運用に関するガイドラインを国が作成・配布

✓認証評価制度の改善

- 「三つの方針」等を共通評価項目とし、2018年度から認証評価に反映

※「三つの方針」とは、卒業認定・学位授与の方針、教育課程の編成・実施の方針、入学者受入れの方針を指します。

大学入学者選抜改革

《「学力の3要素」の多面的・総合的評価》

✓「大学入学共通テスト」の導入

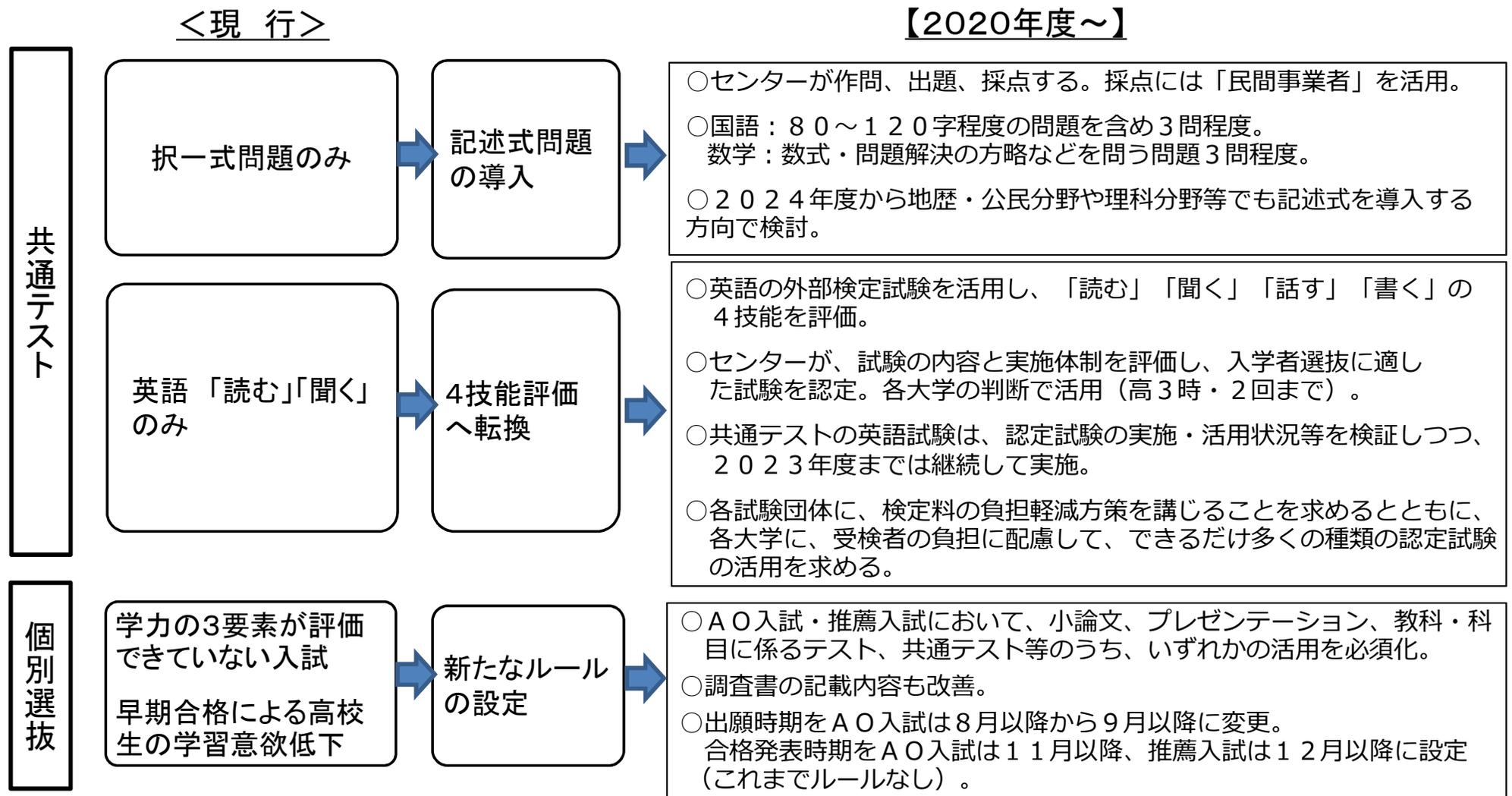
- ◎ 思考力・判断力・表現力の一層の重視
- 「大学入学共通テスト」の実施方針を決定（2017年7月）
 - ▶【国語】【数学】…記述式問題を導入
 - ▶【英語】…4技能（読む・聞く・話す・書く）評価（民間の資格・検定試験を活用）
※追加方針で受験時期・回数の例外的取扱い規定を決定（2018年8月）
- 試行調査（プレテスト）の実施（2017年11月、2018年2月、2018年11月）
- 大学入学共通テストの枠組みで活用する英語資格・検定試験について大学入試センターが公表（2018年3月）

✓個別入学者選抜の改革

- ◎ 明確な「入学者受入れの方針」に基づき、「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜へ改善
- 新たな評価方法の開発・普及（2016（平成28）年度から）
 - ▶大学入学者選抜改革推進委託事業
- 「平成33年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」を決定（2017年7月）
 - ▶入学者選抜に関する新たなルールの設定
 - ▶調査書・提出書類の改善
- 調査書の電子化の在り方については検討中

大学入学者選抜改革

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 2020年度 「大学入学共通テスト」開始 ※記述式、英語4技能
2024年度 新学習指導要領を前提に更に改革



「大学入学共通テスト」にかかる今後のスケジュール

2016年度
(H28)

2017年度
(H29)

2018年度
(H30)

2019年度
(H31)

2020年度
(H32)

2021年度
(H33)

2022年度
(H34)

2023年度
(H35)

2024年度
(H36)

「大学入学共通テスト」の導入

「実施方針」の策定・公表
(29年7月)

試行調査の実施
(29年度)

試行調査の実施
(30年度)

「実施大綱」の策定・公表
(31年度初頭目途)

確認試行調査の実施
(31年度目途)

「大学入学共通テスト」の実施

新学習指導要領に対応した
「実施大綱」の予告

新学習指導要領に対応した
「実施大綱」の策定・公表

新学習指導要領に対応した
テストの実施

試行調査等

	フィージビリティ検証事業	試行調査	試行調査	確認試行調査
受検者数	約1千人	5万人規模	10万人規模	2017、2018(平成29、30)年度の結果を踏まえつつ、実施も含め、詳細について、今後検討予定
対象者	大学1年生	原則、高校2年生以上 (一部、高校3年生以上を含む)	原則、高校2年生以上 (一部、高校3年生以上を含む)	
対象教科等	国語、数学	国語、数学、地歴・公民、理科、英語、特別の配慮等	国語、数学、地歴・公民、理科、英語、特別の配慮等 ^(※) ※具体の対象科目は要検討	
実施時期	11月、2~3月	11月 (一部、2月頃)	11月	

1. 趣旨とねらい

マーク式問題を含め、知識の深い理解と思考力、判断力、表現力を一層重視した問題作成の工夫・改善を行い解答状況等を分析するとともに、記述式問題における形式面・内容面にわたる正答の条件のあり方や採点体制、採点期間等について検証。

2. 実施期間等と実施科目等

◇11月試行調査（平成29年11月13日（月）～24日（金））

- 協力校数：1,889校、●受検者数：受検者最大科目（国語）64,500人
- 国語、数学①（数学Ⅰ・数学A）・・・高校2年生以上
- 数学②（数学Ⅱ・数学B）、地理歴史科（世界史B・日本史B・地理B）、公民（現代社会）、理科（物理・化学・生物・地学）・・・原則高校3年生

◇2月試行調査（平成30年2月13日（火）～3月3日（土））

- 協力校数：158校、●受検者数：6,308人
- 英語（筆記（リーディング）及びリスニング（バージョンA又はバージョンB※1））（マーク式）・・・高校2年生

※受検上の配慮（点字問題）は、平成30年2月5日（月）～3月3日（土）に実施

※1 バージョンA：読み上げ回数が全て2回読みの問題、
バージョンB：読み上げ回数が1回読みと2回読みの問題が混在

3. 分析・検討方針

・各科目の問題構成、設問数、内容等の在り方

①設問ごとの正答率や誤答の選択状況、②設問ごとの五分位図、③設問ごとの識別力（※2）、④正答数の分布、⑤質問紙調査（試験時間、問題量、難易度、問題文の指示の仕方や図・資料等の提示の仕方、進路等に関する質問）を参考にした分析

・記述式問題の正答の条件の設定、採点、成績表示等の在り方

①正答の条件の設定、②自己採点の分析、③解答方法、答案の読み取り、④採点及び検収の体制及び期間、⑤国語の記述式問題の成績表示

・マーク式を含めた成績表示の在り方

試行調査の結果を活用して、①素点に基づいたカテゴリ別（設問、領域、分野等）成績の表示、②分布情報を利用した成績の表示等を中心に検討

※2 科目の正答率から当該設問を除いたものと当該設問の正答率とのピアソン相関。

問題構成や内容等の在り方

（記述式問題）

【国語】

- ・3問ともに無解答率は低く、3問の難易度についてはバランスも考える必要があるが、特に問3（80～120字）の正答率が1割にも満たないことは識別力等の点から課題。

<平成30年度の試行調査に向けて>

- ・3問の難易度のバランスに配慮しつつ、特に、文字数が最も多い問3については、言語活動の条件や場面の設定がより明瞭となるよう工夫することなどにより、3～4割程度の正答率を目指した作問を行う。

【数学】

- ・3問ともに正答率が非常に低く、無解答率が高くなっている。

<平成30年度の試行調査に向けて>

- ・試験問題全体の難易度のバランスの中で、記述式問題の適切な難易度を十分に考慮した作問を行う必要がある。特に、数式ではない文章で解答させる場合の問いの工夫などについては更に検討。

（マーク式問題）

- ・正答率は、ほとんどの科目で全問題数の半数程度～やや少ない方に分布している。また、科目の設問正答率幹葉図を見ると、正答率が低い問題がやや多い傾向が見られる。

- ・題材を複数提示したり、知識の深い理解を問うようにするなど新しいタイプの問題を重視して出題した。こうしたねらいの結果、問題文中の情報量が増えたり、未知の場面での知識の活用が求められるなど、受検者にとって新しい出題傾向となり難易度が高くなった可能性などが考えられる。

<平成30年度の試行調査に向けて>

- ・提示する文章や資料の分量、問題のバランスなどを工夫し、正答率が中程度からやや高い問題を増やし、より多様な学力層を識別。

成績表示の在り方

(記述式)

【国語】

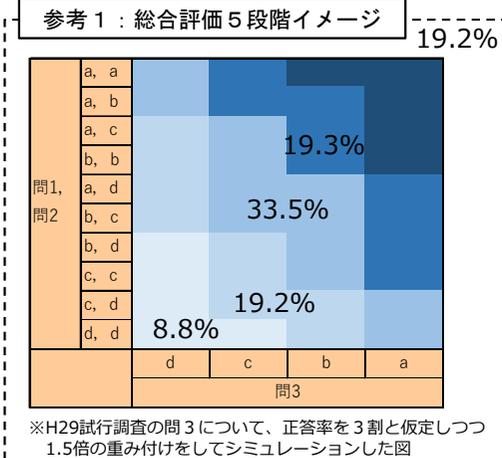
- 小問ごとの段階はあまり細分化しない方がよいが、「正答」、「正答の条件を一部満たす」、「誤答」の3段階のみでは特定の段階に受検者が集まりすぎる。
- 大学での活用のしやすさを考えれば、小問ごとの段階だけでなく、総合評価も段階で示した方がよいのではないか。
- 問3(80字~120字)は、文字数や問いたい資質・能力を勘案すれば、他の2問よりも重く重み付けをした方がよいのではないか。

<平成30年度の試行調査に向けて>

- 国語の記述式問題における段階別の成績表示については、小問は4段階、記述式全体の総合評価は5段階(参考1)を念頭に、関係者から意見を聞きつつ検討。

【数学】

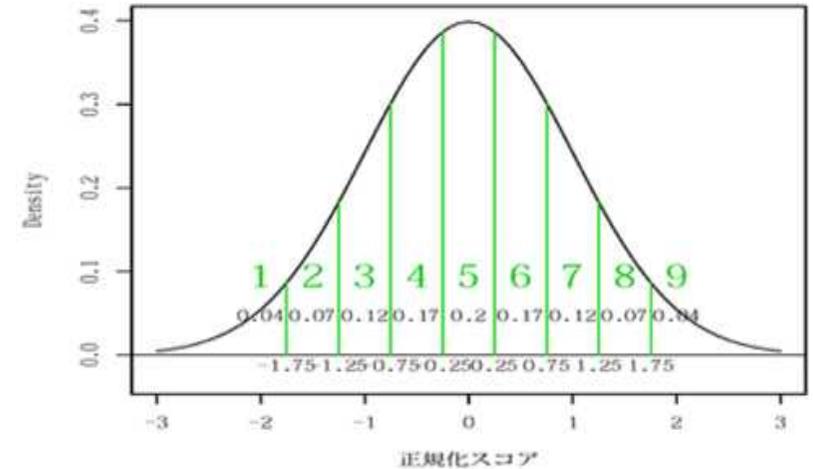
- 数学Iの記述式問題については、マーク式問題と同様に配点する方向で検討。(段階別評価は行わない。)



(マーク式を含む結果全体)

- 正規化得点等を活用した9段階表示(参考2)についてシミュレーションを行った。なお、段階別表示の扱いについては、素点表示が社会的に浸透している現状を踏まえ、当面は素点と併記し各大学の判断による活用に資するようにしていくことが適当か。

参考2：9段階(スタナイン※)のイメージ



※正規化スコアを求めて全体を9分割する、分位点による区分法の一つ。正規分布の場合、-1.75~1.75まで0.5刻みで分けることで、4、7、12、17、20、17、12、7、4%に9分割される。

英語における問題作成の方向性

【英語】

<平成30年度の施行調査に向けて>

- 発音・アクセント問題についての教員アンケート調査の結果等を踏まえ、平成30年度試行調査では、問いの識別性についてはこれまで以上に配慮が求められることに留意しつつ、「読むこと」の能力を問うことを目的とした問題で実施し検証。
- リスニングの読み回数について、教員アンケートの回答の傾向や、正答率に関する分析を踏まえ、1回読みと2回読みが混在する問題で実施し、適切な読み上げ回数を更に検討。
- 英語教育の改革の方向性の中で各技能をバランスよく評価することが求められていることや、多くの資格・検定試験における四技能の配点の状況等を踏まえ、「筆記(リーディング)」「リスニング」の配点を等分とすることなどについて引き続き検証。

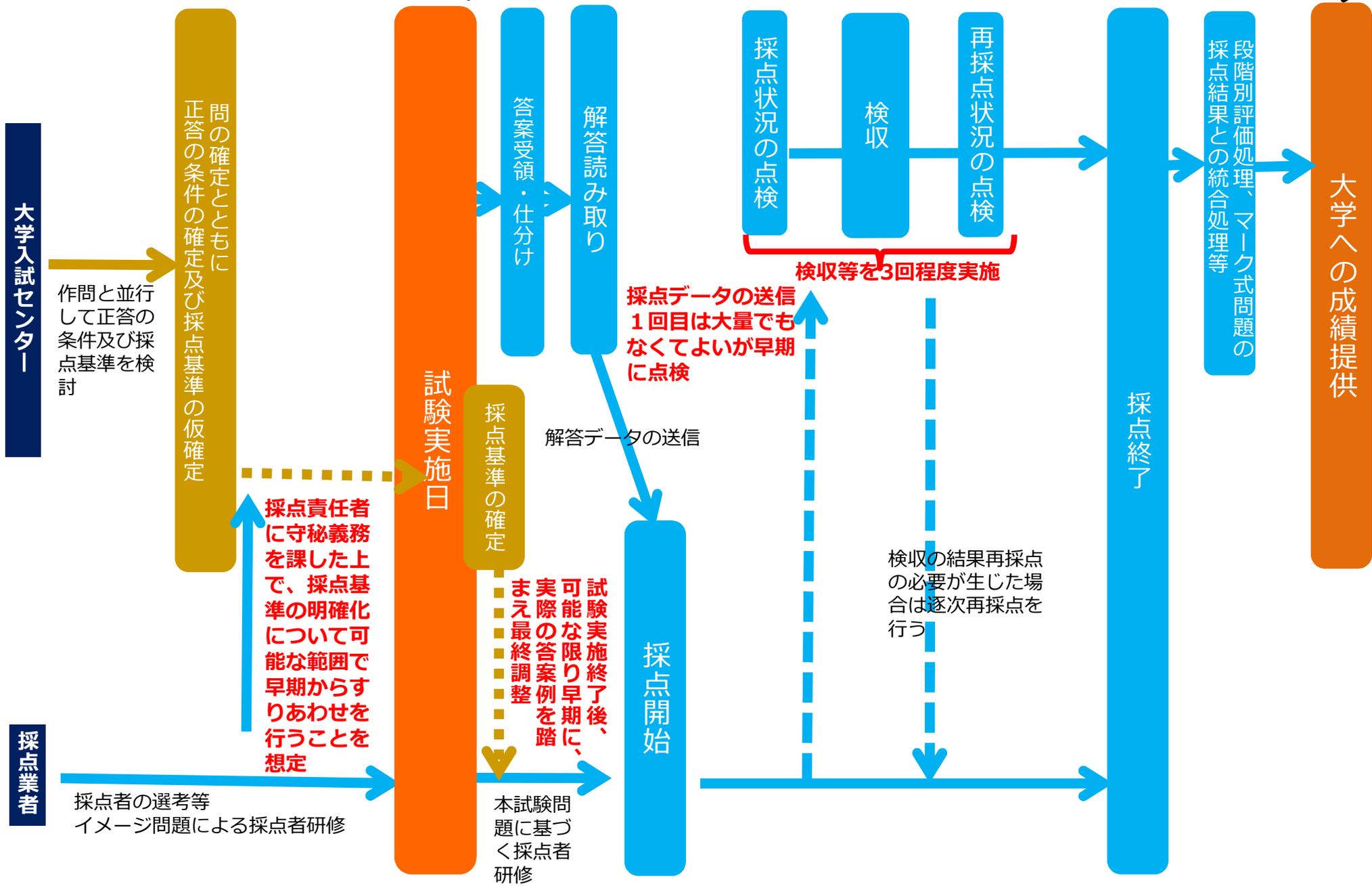
- ◆平成30年2月に受検上の配慮(点字問題)についての試行調査を実施した。

記述式問題を通じて問いたい資質・能力は一般受検者と同様に問うことを前提としつつ、必要となる合理的配慮として、問題文の読み取りに当たっての配慮や、特に国語については解答時間と解答する文字数等や問数のバランスについて引き続き検討。点字解答以外の事項についても、平成30年度中に試行調査を行う予定。

※平成29年度の試行調査で出題された問題は、あくまでも検証のためのものであり、今回の問題構成や内容が必ずしもそのまま平成32年度からの大学入学共通テストに受け継がれるものではない。実際の大学入学共通テストの問題構成や内容等がどのようなものになるかは、平成30年11月の試行調査の結果等を踏まえ更に検討。

記述式問題の採点に関する流れ(イメージ)

試験実施から成績提供まで現行日程+1週間程度を予定



平成30年11月試行調査（プレテスト）実施概要

大学入試センター資料を改変

区分	A日程	B日程
①趣旨	記述式やマーク式の問題等の検証 新たに試験の実施運営等も含めた総合的な検証	
②実施日程	平成30年11月10日(土) 13時～18時	平成30年11月10日(土)、11日(日)の2日間 ※現行のセンター試験とほぼ同様の時間割
③実施科目	<ul style="list-style-type: none"> ・国語（記述式含む） ・数学Ⅰ・数学A（記述式含む） ※その他自己採点を実施	<ul style="list-style-type: none"> ・国語（記述式含む）、英語（リスニング含む） ・数学Ⅰ・数学A（記述式含む）、数学Ⅱ・数学B ・世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、物理、化学、生物、地学 ・物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎 ※その他自己採点、大学からの聞き取り等を実施
④試験時間	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：100分 ・数学Ⅰ・数学A：70分 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：100分 ・英語：80分＋リスニング30分 ・数学Ⅰ・数学A：70分 ・その他の科目はすべて60分（理科基礎科目は2科目で60分）
⑤受検対象者	高2生以上<受検者最大科目（国語）：54,684人>	原則高3生<受検者最大科目（国語）：13,063人>
⑥実施会場	原則、現行センター試験の大学会場 （全都道府県454会場）	現行センター試験の大学会場 （全都道府県74会場）
⑦試験監督等	大学教職員	
⑧費用負担	会場費用、試験監督者謝金等の経費は、現行センター試験の配分の考え方を踏まえ、所要額を措置	
⑨検証項目	<ul style="list-style-type: none"> ・実施・監督マニュアル、問題冊子、解答用紙、下書き用紙及び筆記用具 ・試験時間延長に伴う時間割等の構成と受検者の負担感等のバランス ・平成29年度試行調査の結果を踏まえた、問の構成の在り方、問題の内容と試験時間のバランス ・作問過程、採点基準、採点期間中の作問担当者を含めた採点のあり方や採点の工夫 など 	

○リスニングは、個別音源機器以外の方法で実施する。○現行のセンター試験利用大学において、原則としてA日程・B日程いずれかの日程で実施することを想定。 7

「大学入学共通テスト」における問題作成の方向性等と 本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について概要①

(平成30年6月18日大学入試センター公表)

- 大学入試センターでは、平成29年7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」に基づき、大学入学共通テスト(以下「共通テスト」)の問題作成や実施に向けた検証を行っており、**29年度中に試行調査(プレテスト)を実施。**
- **平成30年11月には、全国の大学を会場として2回目の試行調査を実施予定。**それに先立ち、**2020年度からの共通テストの実施に向けて現在検討されている問題作成の方向性等を、試行調査の趣旨**と併せて各高校等及び各大学の関係者にお知らせする。
※ 本資料は、現時点での検討状況を踏まえたものであり、各教科・科目における問題のねらいや実施方法等については、30年11月の試行調査の分析・検証を経て、平成31年度初頭に正式に公表される予定。

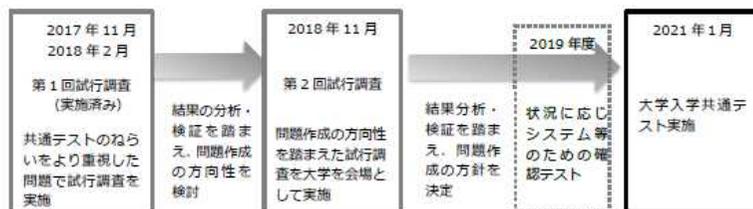
問題作成の方向性

- **大学入試センター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしつつ、**共通テストで問いたい力を明確にした問題作成
- **高校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力を問う**問題作成
- 「どのように学ぶか」を踏まえた問題の場面設定

実施教科・科目等

- 2020年度からの共通テストにおける実施教科・科目は、右表のとおり。
- 現行学習指導要領に基づく学習範囲からの出題であるため、**過年度卒業生用の別の問題は作成しない方向**で検討。
- 平成30年試行調査では、**平均得点率(平均正答率)を5割程度として実施**し検証する予定。

※ 右表のうち「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「地理A」、「世界史A」、「日本史A」、「倫理、政治・経済」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」は、試行調査では実施しない。



共通テストにおける出題教科・科目について(予定)

教科	グループ	出題科目	試験時間
国語		「国語」	100分
地理歴史 公民		「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 「現代社会」「倫理」「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間120分)
数学	①	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」	70分
数学	②	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」「情報関係基礎」	60分
理科	①	「物理基礎」「化学基礎」 「生物基礎」「地学基礎」	2科目選択 60分
理科	②	「物理」「化学」 「生物」「地学」	1科目選択 60分 2科目選択 130分 (うち解答時間120分)
外国語		「英語」「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」「韓国語」	【筆記(リーディング)】 80分 【リスニング】(「英語」のみ) 60分 (うち解答時間30分)

「大学入学共通テスト」における問題作成の方向性等と 本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について概要②

(平成30年6月18日大学入試センター公表)

記述式問題の導入

- **国語と数学 I** において、それぞれ小問 3 問の記述式問題を導入。

	国語	数学 I
出題形式	実用的な文章を主たる題材とするもの、論理的な文章を主たる題材とするもの又は両方を組み合わせたものとし、小問 3 問（20～30 字程度、40～50 字程度、80～120 字程度）で構成される大問 1 問を出題	数式を記述する問題、または問題解決のための方略を端的な短い文で記述する問題を出題
試験時間	100分 (現行センター試験では80分)	「数学 I」、「数学 I・数学 A」でそれぞれ 70 分 (現行センター試験では60分)
成績表示	マーク式問題の配点とは別に、記述式問題の段階別評価 (段階の数は小問ごとに4段階表示、総合評価は5段階表示の方向で検討)	マーク式問題と同様に配点

共通テストの枠組みにおける英語の資格・検定試験の活用との関係

- 「英語」については、**2020年度から2023年度までの**枠組みとして、各大学は、以下 2 つのいずれか又は双方を利用
 - ① **センターが問題を作成し共通テストとして実施する試験**
 - ② **民間の試験実施主体が実施する資格・検定試験**
- 平成 30 年度試行調査では、センターが問題を作成し実施する試験については、次の方向性のもとに、実施し検証する予定
 - ✓ CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) を参考に、**A1 から B1 までの問題**を組み合わせ出題
 - ✓ 筆記 (リーディング) については、**発音、アクセント、語句整序などの問題は出題しない**
 - ✓ リスニングについては、**1 回読みと 2 回読みが混在する構成**で実施
 - ✓ 「筆記 (リーディング)」「リスニング」の配点を均等として実施

受検上の配慮

- 現行センター試験で行ってきた受検上の配慮事項を踏まえ、共通テストにおける受検上の配慮事項等について検討中。
- 特に、**記述式問題の解答で文字を書くことが困難な受検者に対しては、審査の上パソコンを利用した解答を認めることについて具体的な実施方法等を検討中。**

成績提供の時期等

- 記述式問題の導入に伴い、センターから大学への成績提供時期は現行のセンター試験より**1 週間程度後ろ倒し**される見込み。
- 成績は**素点及び国語の記述式問題の段階別評価**のほか、**各科目について 9 段階程度の段階別評価**を参考情報として提供することを検討中。

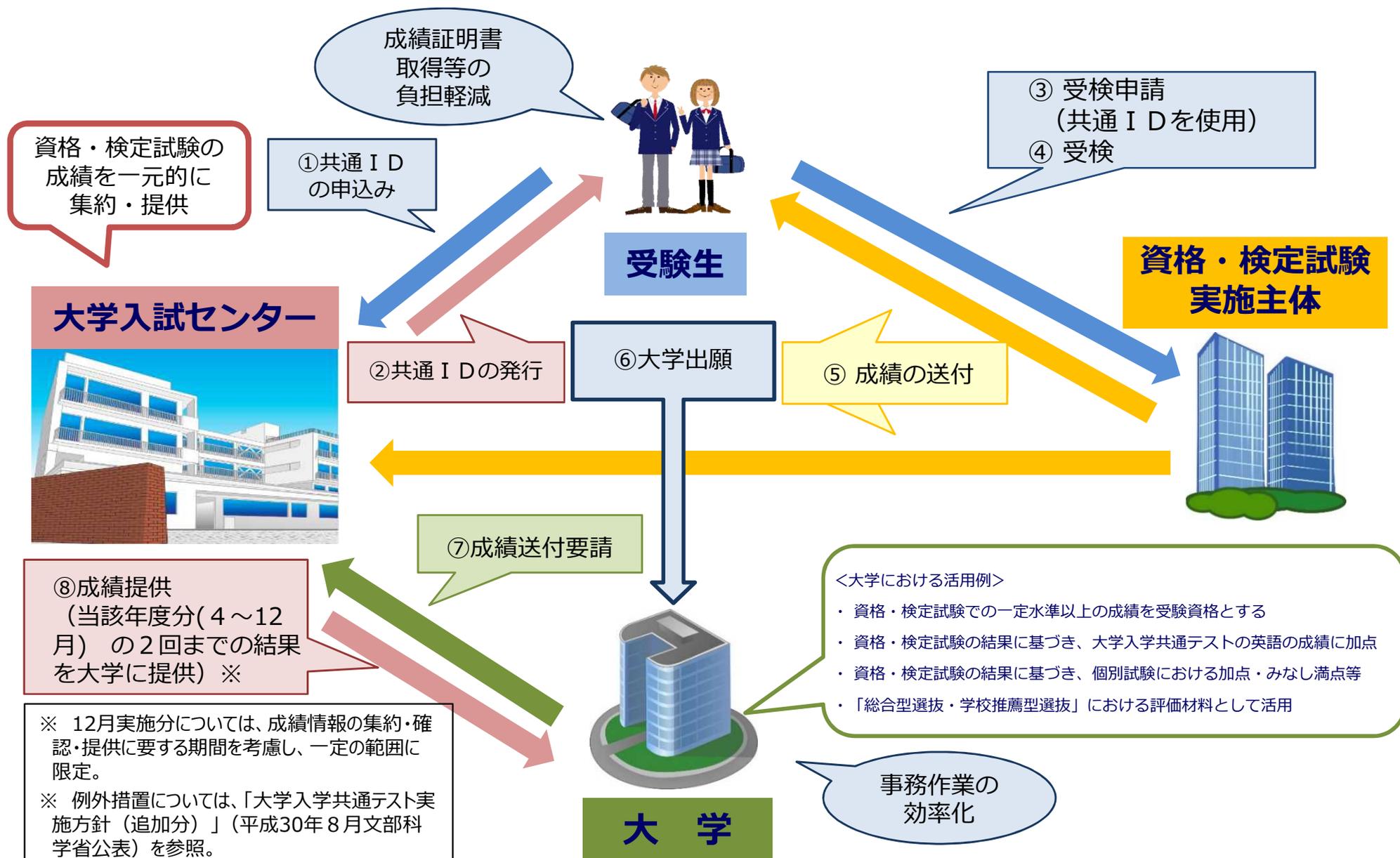
平成30年度試行調査結果（速報）：科目別の受検者数とマーク式問題の平均得点率等

教科名		科目名	受検者数(人) 3年生の 受検者数(人)	平均得点率(%) 3年生の 平均得点率(%)	平均点(点) 3年生の 平均点(点)	平均 正答率(%)	
国語 (200点)		国語	67,745 14,677	45.40 51.37	90.81 102.74	46.92	
数学	数学① (85点)	数学Ⅰ・数学A	65,764 13,407	30.12 36.17	25.61 30.74	34.54	
	数学② (100点)	数学Ⅱ・数学B	4,935 4,110	36.06 35.49	36.06 35.49	44.89	
地理歴史 (100点)		世界史B	2,725 2,151	59.60 62.78	59.60 62.78	59.24	
		日本史B	4,200 3,538	54.57 55.19	54.57 55.19	53.58	
		地理B	1,203 741	61.46 62.72	61.46 62.72	60.02	
公民 (100点)		現代社会	2,677 2,021	51.63 51.77	51.63 51.77	51.82	
		倫理	1,489 1,264	54.85 55.89	54.85 55.89	52.32	
		政治・経済	2,243 2,128	49.27 49.29	49.27 49.29	49.62	
理科	理科① (50点)	物理基礎	591 279	58.26 58.04	29.13 29.02	53.64	
		化学基礎	4,049 3,207	50.99 50.41	25.50 25.20	49.20	
		生物基礎	5,988 4,943	51.02 51.21	25.51 25.60	47.53	
		地学基礎	2,398 2,113	57.21 57.74	28.60 28.87	57.47	
	理科② (100点)	物理	3,196 2,611	37.47 38.54	37.47 38.54	38.86	
		化学	4,679 3,961	49.68 50.77	49.68 50.77	51.03	
		生物	1,611 1,386	35.52 36.05	35.52 36.05	32.63	
		地学※8	130 130	42.02 42.02	42.02 42.02	42.65	
外国語		英語	(筆記[リーディング]) (100点)	12,990 10,623	51.25 51.15	51.25 51.15	56.37
			(リスニング) (100点)	12,927 10,622	59.10 58.82	59.10 58.82	59.09

「大学入試英語成績提供システム」について〈活用イメージ〉

大学入試センターに「大学入試英語成績提供システム」を設け、大学入学者選抜における資格・検定試験の活用を支援（「資格・検定試験」の成績を一元的に集約し、要請のあった大学に提供）

※本システムによる成績情報は、大学入学共通テストを利用しない入学者選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜でも利用可能。



大学入試英語成績提供システム参加要件を満たしていることが確認された資格・検定試験

(アルファベット・50音順)

	資格・検定試験実施主体名	資格・検定試験名
	Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定機構)	ケンブリッジ英語検定
1		C2 Proficiency
2		C1 Advanced
3		B2 First for Schools
4		B2 First
5		B1 Preliminary for Schools
6		B1 Preliminary
7		A2 Key for Schools
8	A2 Key	
9	Educational Testing Service	TOEFL iBTテスト
10	IDP:IELTS Australia	International English Language Testing System(IELTS)(アカデミック・モジュール)
11	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Listening & Reading TestおよびTOEIC® Speaking & Writing Tests
	株式会社ベネッセコーポレーション	GTEC
12		Advanced
13		Basic
14		Core
15	CBT	
16	公益財団法人日本英語検定協会	Test of English for Academic Purposes(TEAP)
17		Test of English for Academic Purposes Computer Based Test(TEAP CBT)
		実用英語技能検定 (英検)
18		1級(対象:「公開会場実施」)
19		準1級(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」)
20		2級(対象:「公開会場実施」・「4技能CBT」)
21		準2級(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)
22	3級(対象:「公開会場実施」・「1日完結型」・「4技能CBT」)	
23	ブリティッシュ・カウンシル	International English Language Testing System(IELTS) (アカデミック・モジュール)

主な英語の資格・検定試験及び参加試験※

平成30(2018)年5月現在

試験名	ケンブリッジ 英語検定		英検		GTEC/ GTEC CBT		IELTS		TEAP/ TEAP CBT		TOEFL iBT		TOEIC L&R		TOEIC S&W	
実施団体	ケンブリッジ大学 英語検定機構		公益財団法人 日本英語検定協会		ベネッセ コーポレーション		テスト作成:ケンブリッジ大学英語検定機構、ブリティッシュ・カウンシル 日本事務局:(公財)日本英語検定協会		公益財団法人 日本英語検定協会		テスト作成:ETS 日本事務局:CIEE		テスト作成:ETS 日本事務局:IIBC			
受検人数 (国内実績)	非公表 ※全世界では約550万人		約339.4万人 ※英検Jr.、英検IBAを含む英検テストファミリー総志願者数		約93万人		約3.7万人 ※全世界では290万人		約2.5万人 ※志願者数		非公表		約250万人 ※TOEICプログラム全世界約700万人		約3.2万人 ※TOEICプログラム全世界約700万人	
回数 年間	各10-22回程度、計206回 (2018年・世界共通)	各2~4回	英検3回 CBT3回 (CBTは毎月実施だが、検定回ごとに1回受験可)	S-Interview、1 day:各級2回 CBT:毎月実施	PBT 3回 CBT 3回	PBT 4回 CBT 2回	約40回	22回 ・24回	各3回		40-45回	28回	10回	8回	24回 (1日2回x12回)	18回 (1日2回x9回)
会場数	最大7地区 20会場	最大10地区 47会場	公開会場230 都市400会場+ 準会場 (海外・離島含)17,000会場	S-Interview、1 day: 全都道府県約400会場 CBT: 13都市約20会場	全都道府県1,850会場 (CBT:58会場)	全都道府県700会場程度 (CBT:70会場程度)	20都道府県約90会場	10地区以上 会場数未定	20都道府県約60会場 (うちCBT約15会場)	全都道府県約90会場 (うちCBT11都道府県以上、会場数未定)	最大10地区 78会場	会場数未定	全都道府県最大247会場 (*6)	全都道府県最大214会場 (*6)	全国13地域 最大47会場 (*6)	全国13地域 最大43会場 (*6)
成績表示 方法 (*) 1	CEFR・Cambridge Englishスケールスコア (80-230)・合格グレード		合否・ 英検CSEスコア(0-3400)・ 英検バンド		スコア(0-1400)		CEFR・ バンドスコア (1.0-9.0、0.5刻み)		スコア(TEAP: 80-400、TEAP CBT:0-800)・ CEFRバンド		スコア(0-120)		スコア(10-990)		スコア(0-400) ※4技能での評価においては0-1000として合算	
出題形式 実施方式 (*) 2	L, R, W 紙/CB S ペア面接		L, R, W 紙 S 面接 (CBTは全てCBT)	L, R, W 紙 S 面接/CBT (CBTは全てCBT)	L, R, W 紙 S タブレット (CBTは全てPC)		L, R, W 紙 S 面接		L, R, W 紙(*5) S 面接 (CBTは全てCBT)		CBT		紙		CBT	
受検料 (税込・円)	C2 Proficiency 25,380 C1 Advanced 22,140 B2 First 19,980 B1 Preliminary 11,800 A2 Key 9,720 (*3)		1級: 8,400 準: 6,900 2級: 5,800(*4) 準: 5,200(*4) 3級: 3,800(*4)	1級: 16,500 準: 9,800 2級: 7,500 準: 6,900 3級: 5,800	紙 5,040 CBT 9,720	紙 6,700 CBT 9,720	25,380		6,000 L/R 15,000 L/R/W/S		235米ドル		5,725		10,260	

※既存の資格・検定試験と「大学入試英語成績提供システム」参加試験とで違いがある場合、既存試験は左側、参加試験は右側の欄に情報を記載した。なお、IDP:IELTS AustraliaによるIELTSは条件付きで参加要件を満たしているとみなすことができると判断されたため、掲載していない。参加試験に関する情報は予定であり変更がありえる。
*1全ての試験においてスコアを技能別に表示 *2: L=Listening(聞く), S=Speaking(話す), R=Reading(読む), W=Writing(書く) *3: 既存試験は実施試験センターにより異なることがあるが、参加試験はレベル毎に価格を統一する。*4: 準会場における受検料は400円引き *5: TEAP、TEAP CBT共にL/Rのみでも受験可能 *6: 開催月により異なる

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200			9.0 8.5				
C1	199 180	3299 2600	1400 1350	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160	2599 2300	1349 1190	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140	2299 1950	1189 960	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120	1949 1700	959 690		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100	1699 1400	689 270					620 320

は各級合格スコア

※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

○ 表中の数値は各資格・検定試験の定める試験結果のスコアを指す。スコアの記載がない欄は、各資格・検定試験において当該欄に対応する能力を有していると認定できないことを意味する。

※ ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定及びGTECは複数の試験から構成されており、それぞれの試験がCEFRとの対照関係として測定できる能力の範囲が定められている。当該範囲を下回った場合にはCEFRの判定は行われず、当該範囲を上回った場合には当該範囲の上限に位置付けられているCEFRの判定が行われる。

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

※ 障害等のある受検生について、一部技能を免除する場合等があるが、そうした場合のCEFRとの対照関係については、各資格・検定試験実施主体において公表予定。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表（附属資料①）

- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment: 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠)について

CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会が発表した。

CEFRが示している6段階の共通参照レベルの記述は次のとおり。

熟練した 言語使用者	C2	聞いたり読んだりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。
	C1	いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる
自立した 言語使用者	B2	自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について明確で詳細な文章を作ることができる。
	B1	仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。
基礎段階の 言語使用者	A2	ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。
	A1	具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができ、住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。

(出典) ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構

「大学入試英語成績提供システム」参加試験ニーズ調査について（結果）

2020年度から開始される大学入学共通テストの枠組みで行う民間の英語資格・検定試験について受検ニーズを把握するため、全国の高等学校に対してアンケート調査を実施しました。調査結果をもとに、受検生の受検機会の確保、利便性の向上や経済的負担の軽減を図るため、各試験実施主体に対して、実施会場の追加や検定料の低減を求めてまいります。

①調査対象校	全国の国公私立高等学校(中等教育学校を含む)
②調査期間	平成30年5月21日～平成30年9月14日
③対象とする資格・検定試験	「ケンブリッジ英語検定」、「TOEFL iBTテスト」、「IELTS」、「TOEIC® Listening & Reading TestおよびTOEIC® Speaking & Writing Tests」、「GTEC」、「TEAP」、「TEAP CBT」、「実用英語技能検定(英検)」
④主な調査項目	(1)2020年度における高校3年生が、当該年度の4月～12月に受検することが見込まれる試験の予想受検者数 (2)2020年度における高校1～3年生が、大学入学者選抜に用いるための受検を除いて、高校の授業や自己学習のために受検が見込まれる試験の予想受検者数 (3)都道府県別試験実施会場・機器貸与の可否について (4)各校から都道府県庁所在地までの所要時間・移動経費の目安について
⑤回答のあった学校数	4,724校

集計結果

4.(1)のうち対象試験の結果を合算した数字を公表、各試験実施主体に対しては(1)及び(2)の自社分のみ、(3)及び(4)について提供。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月～12月	計
予想受検者数(※)	26,317	37,274	408,248	101,796	61,446	185,185	223,354	190,148	1,233,768

※現在の高校1年生が3年生になった際、資格・検定試験をいつ受検すると予測されるかをまとめた数字(生徒1人につき最大2回受検することを想定した延べ人数)

政府方針における大学等の受験料負担軽減方策について

◆経済財政運営と改革の基本方針2018（平成30年6月15日閣議決定）より抜粋

第2章 力強い経済成長の実現に向けた重点的な取組

1. 人づくり革命の実現と拡大

(1) 人材への投資

② 高等教育の無償化

(無償化の対象範囲)

給付型奨学金については、住民税非課税世帯の子供たちを対象に、学生が学業に専念するため、学生生活を送るのに必要な生活費を賄えるよう措置を講じることとする。対象経費は、他の学生との公平性の観点を踏まえ、社会通念上妥当なものとし、具体的には、日本学生支援機構「平成24年度、26年度、28年度学生生活調査」の経費区分に従い、修学費、課外活動費、通学費、食費（自宅外生に限って自宅生分を超える額を措置。）、住居・光熱費（自宅外生に限る。）、保健衛生費、通信費を含むその他日常費、授業料以外の学校納付金（私立学校生に限る。）を計上、娯楽・嗜好費を除く。あわせて、**大学、短期大学、高等専門学校、専門学校（以下「大学等」という。）の受験料を計上**する。

◆幼児教育・高等教育の無償化の制度化に向けた方針（平成30年12月28日関係閣僚合意）より抜粋

Ⅱ 高等教育無償化の制度の具体化に向けた方針

3. 授業料等減免・給付型奨学金の概要

(2) 給付型奨学金

○ 給付型奨学金は、日本学生支援機構が各学生に支給する。具体的な制度設計については、現行の給付型奨学金の枠組みを基礎としつつ、下記のとおりとする。

(給付額の考え方)

○ 学生が学業に専念するため、学生生活を送るのに必要な学生生活費を賄えるよう措置を講じる（※26）。具体的には、国公立の大学、短期大学及び専門学校の自宅生は年額約35万円、自宅外生は年額約80万円とし、私立の大学、短期大学及び専門学校の自宅生には約46万円、自宅外生は年額約91万円とする。

（※26）「経済財政運営と改革の基本方針2018」に即し、学生が学業に専念するため、学生生活を送るのに必要な学生生活費を賄えるよう措置し、あわせて、**大学等の受験料を措置**する。

大学入学共通テスト実施方針（平成29年7月文部科学省公表）では、「7. 英語の4技能評価」において、「民間の資格・検定試験を活用するとともに、資格・検定試験のうち、試験内容・実施体制等が入学者選抜に活用する上で必要な要件を満たしているものを大学入試センターが認定し、その試験結果及びCEFRの段階別成績表示を要請のあった大学に提供する」こととしており、具体的には大学入試センターにおいて、参加要件を満たしていることが確認された民間の資格・検定試験が参加する「大学入試英語成績提供システム」を新たに設ける予定である。同方針で明らかにされていない事項につき、次のとおり定める。

1 高校2年時に大学入試英語成績提供システム参加試験（以下「参加試験」という。）を受検し、文部科学省が公表しているCEFR対照表のB2以上に該当する結果を有する者で、次の①または②のいずれかの負担を軽減すべき理由があり、かつ、高校の学びに支障がないと学校長が認めた者は、高校3年の4月から12月の2回に代えて、その結果を活用することができる。

＜負担を軽減すべき理由＞

- ①非課税世帯であるなど経済的に困難な事情を証明できること
- ②離島・へき地に居住または通学していること

2 受検年度の4月から12月を含めた一定期間海外に在住していた者は、受検年度の4月から12月に受検した、参加試験と同種同名の海外の試験結果を活用することができる。

3 病気等のやむを得ない事情により受検できなかった等の者であって特別に配慮すべきとされた者については、受検年度の前年度の参加試験の結果を活用することができる。

4 既卒者については、受検年度の4月から12月の2回までの試験結果と併せて受検年度の前年度の試験結果を大学の判断により活用できるよう提供できるものとする。

5 各大学は、障害のある受検生の試験結果について、障害の種類や程度によって不利益が生じないように扱うこととする。

大学入学共通テストの枠組みで実施する民間の英語資格・検定試験について (平成30年8月28日文科科学省高等教育局大学振興課)

《概要》 (掲載URL)http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/koudai/detail/1408564.htm

1. 参加要件及び参加要件を満たしていることの確認方法

○「大学入試英語成績提供システム参加要件」に基づき、7実施主体、23資格・検定試験について、入学選抜に活用する上で必要な水準及び要件が満たされていることを確認。

2. 高等学校学習指導要領との整合性

○英語民間試験と学習指導要領との整合性について、英語教育の専門家等による確認を実施。

3. 受験機会の公平性担保、受験生の経済的負担軽減等の具体的方法

①参加要件（原則全都道府県実施、経済困難者への検定料の配慮、障害のある受検者への配慮）を確認。

②高校へのニーズ調査を踏まえた実施主体への会場確保と検定料配慮を要請。③実施方針（追加分）を通知。

4. 資格・検定試験の成績とCEFRとの対照表の確認

○欧州評議会のルールに基づき、各資格・資格検定試験の成績について対応関係を確認。

5. 実施及び採点の信頼性等

○参加要件（試験監督及び採点の公平性・公正性確保の方策公表、監督責任者及び採点者が所属高校関係者でないこと、採点の質確保方策の公表）を確認。

6. 資格・検定試験の活用にあたっての責任主体

①責任は一般的にそれぞれが実施している範囲について責任を負うことが原則、②ミスやトラブルが発生しないよう、民間実施主体が協議しつつ、万が一発生した場合には文科科学省及び大学入試センターが速やかな対応を講じる。

7. 資格・検定試験を安定的に実施するための取組

○参加要件が満たされない場合は改善案を提出、公表。その上で改善されない場合は成績提供システムへの参加を取り消す。

8. 今後の継続的な情報発信

○改革の進捗状況に応じた継続的な情報発信。

大学入試英語 4 技能評価ワーキンググループの設置について（平成30年12月）

1. 背景・目的

大学入学者選抜で「読む」「聞く」「話す」「書く」の英語の4技能を適切に評価するため、大学入学共通テストの枠組みにおいて、現に民間事業者等により広く実施され、一定の評価が定着している資格・検定試験を活用することとし、これを具体化するための仕組みとして「大学入試英語成績提供システム」を大学入試センターにおいて構築しているところ。

今後、本システムの適切な運用がなされるよう、大学入学者選抜における英語の4技能評価に関係する団体及び試験実施団体等によるワーキンググループを設置し、準備の進捗状況を共有するとともに、必要な事項について意見交換を行う。

2. 検討事項

- (1) 「大学入試英語成績提供システム」の準備状況に関する事項
- (2) 「大学入試英語成績提供システム」で想定される問題とその対応に関する事項
- (3) その他

3. 構成員

- ・文部科学省
- ・「大学入学者選抜方法の改善に関する協議」関係団体（※1）
- ・英語成績提供システム参加試験実施団体（※2）
- ・その他必要と認める者

※1 国立大学協会、公立大学協会、公立短期大学協会、日本私立大学連盟、日本私立大学協会、日本私立大学短期大学協会、全国高等学校長協会、日本私立中学高等学校連合会、全国都道府県教育長協議会、大学入試センター

※2 ケンブリッジ大学英語検定機構、Educational Testing Service、IDP:IELTS Australia、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、株式会社ベネッセコーポレーション、公益財団法人日本英語検定協会、ブリティッシュカウンシル

※ 本ワーキンググループは、大学入学者選抜等に係る非公開の情報をもとに検討を行う必要があることなどから、原則として非公開で開催。

平成26年12月に文部科学省において発足した「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する連絡協議会」に参加する試験実施主体が集まり、作成したポータルサイト。教育関係者、受験者、保護者等に、適正かつ包括的な英語 4 技能試験の内容・レベル・活用事例等の情報提供を行うことを目的としている。

URL: <http://4skills.jp/>

「大学入試英語成績提供システム」に参加予定の資格・検定試験の概要の一覧表を掲載。

掲載資料イメージ↓

試験名	実施主体名	目的・検定等		成績提供システム	
		主な目的	検定	科目(総合)	スコア(総合) [注]
ケンブリッジ 英語検定 (Cambridge English Qualifications)	Cambridge Assessment English (ケンブリッジ大学英語検定 機構)	C2 Proficiency	海外の大学・大学院への進学、あるいは海外で就業する際に必要な英語力を測定することを目的とする。	C1~C2	180~230
		C1 Advanced	海外の大学への進学準備コースを受講する、あるいは英語を基幹授業で履修するために必要な英語力までを測定することを目的とする。	B2~C2	160~210
		B2 First for Schools	海外の大学への進学準備コースを受講する、あるいは英語を基幹授業で履修するために必要な英語力までを測定することを目的とする。	B1~C1	140~190
		B1 Preliminary (ケンブリッジ大学英語検定 機構)	日常に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された試験である。検定教科書の目標に合致した内容となっている。	A2~B2	120~170
		A2 Key	日常に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された試験である。検定教科書の目標に合致した内容となっている。	A1~B1	100~150
		A1 Key for Schools	日常に用いる英語をどれだけ学習したかを測ることが意図された試験である。検定教科書の目標に合致した内容となっている。		
英検	公益財団法人 日本英語検定協会	S-Interview	英語圏における社会生活(日常・アカデミック・ビジネス)に必要な英語を理解し、使うことができるかを評価する。	S-Interview	
		1級		B2~C1	0-340.0
		2級		B1~B2	0-300.0
		3級		A2~B1	0-260.0
		S-1 day		A1~A2	0-240.0
		1級		A1	0-220.0
		2級		S-1 day	
		3級		B1~B2	0-300.0
		CBT		A2~B1	0-260.0
		1級		A1~A2	0-240.0
2級	A1	0-220.0			
3級	CBT				
Advanced	株式会社 ベネッセコーポレーション	英語によるアカデミック(CBT/Advanced/Basic/Core)・ジェネラル(Advanced/Basic/Core)な状況におけるコミュニケーション能力を測る。	A1~B2	0-128.0	
Basic			A1~B1	0-108.0	
Core			A1~A2	0-84.0	
CBT			A1~C1	0-140.0	
IELTS (例:「7カドミク・モジュール」)	British Council	英語を用いたコミュニケーションが必要な場において、就学・就業するために必要な英語力があるかを評価する。	B1~C2	0-0-9.0 ※0.5割み	

(注) 英語4技能試験情報サイト中の上記一覧表以外の箇所には、大学入試英語成績提供システム対象外の資格・検定試験の情報も含まれるため、御留意ください。